応用物理学会 結晶工学分科会 第16回結晶工学セミナー、2011/10/14



アドミタンス測定によるMIS界面電子準位の評価 ~窒化物半導体界面への適用と解釈~

橋詰 保

北海道大学

量子集積エレクトロニクス研究センター





MIS構造

- ・トランジスタゲート構造、種々の表面安定化構造
- ・IS界面の電子捕獲準位

トランジスタの基本性能(gm、チャネル移動度、・・・) 動作安定性(電流ドリフト、コラプス、・・・)

- 1. 表面・界面準位のモデル、電荷状態、基準エネルギー
- 2. 表面・界面準位の評価法
- 3. GaN MOS構造の評価例
- 4. AlGaN/GaN HEMT MIS構造のCV特性の解釈
- (5.ドライエッチGaN表面に形成したMOS構造)



電荷中性準位とバンドラインナップ

Band line-up for semiconductors based on ECNL





E_{CNL} 電荷中性準位 midgap energy branch point

Mönch ASS, **117/118**, 380(1997)







準位密度は表面状態により大きく異なる

 $1 \times 10^{11} \sim 1 \times 10^{13} \text{ cm}^{-2} \text{eV}^{-1}$

- ・プロセス中の表面欠陥導入
- ・表面の化学吸着状態
- ・絶縁膜形成による化学結合の乱れ



Charging condition for state continuum



荷電状態の変化





 (\textcircledlefthat)

1 中性

- =

EF







D_{it} (E) in [cm⁻²eV⁻¹]

例1 SiにおいてD_{it}(E) = 1x 10¹¹ cm⁻²eV⁻¹(均一) 表面準位全体の密度 = D_{it}(E) x Eg = 1x 10¹¹ cm⁻²eV⁻¹ x 1.0 = 1x 10¹¹ cm⁻²

例2 1x 10¹¹ cm⁻² の密度は大きいのか? Si MOSFETやGaAs FETにおける キャリア密度 1x 10¹² cm⁻² 最大値は?



MOS構造のアドミタンス評価

E.H. Nicollian & J.R. Brews MOS Physics and Technology Wiley, 2003

C-V特性の評価例









空乏状態ー少数キャリア無視



τ(E)=C_{it}R_{it} qD_{it}=C_{it} D_{it} [cm⁻²eV⁻¹]





準位からのキャリア放出時定数

SRH統計から予想される 準位からの電子放出時定数

$$\tau_e = \frac{1}{\sigma_e v_{TH} N_C} \exp\left(\frac{E_C - E_T}{kT}\right)$$

σ:捕獲断面積 VTH:キャリア熱速度







界面準位の算出法一高周波CV法一

$$V_G = V_{OX} + V_S = \frac{Q_S(V_S) + Q_{it}(V_S)}{C_{OX}} + V_S$$

$$dV_G = \frac{1}{C_{OX}} \left[\frac{dQ_S}{dV_S} dV_S + \frac{dQ_{it}}{dV_S} dV_S + C_{OX} dV_S \right]$$
$$= \frac{1}{C_{OX}} \left[C_{OX} + C_S(V_S) + C_{it}(V_S) \right] dV_S$$

 $D_{it}(V_S)[cm^{-2}eV^{-1}] = \frac{C_{OX}}{q} \left| \frac{1}{\frac{dV_S}{dV_S}} - 1 \right| + \frac{C_S(V_S)}{q}$



1)実験容量値から各ゲート電圧VGに対応する表面ポテンシャルVSを算出し、

V_G-V_S特性よりV_G-(dV_S/dV_G)特性を求める。

- 2)着目するVsに対応する理想空乏層容量Csを計算する。
- 3)表面ポテンシャルVsの位置の界面準位密度を求める

ゲート電圧VGと表面ポテンシャルVsの関係











$$C_{S} = \frac{dQ_{S}}{dV_{S}}$$







1)理想CV曲線の計算

・絶縁膜容量と不純物密度の正確な算出

2)解析の仮定

- ・界面準位は測定信号に追随しない
- ・界面準位の荷電状態は表面ポテンシャルに従う







GaN MOS構造の評価



ワイドギャップ半導体への絶縁膜選択の難しさ



SiN膜の表面不活性効果







SiNx膜のAlGaNに対するバリア効果





Al₂O₃/n-GaN構造の作成プロセスと評価









ー深刻な漏れ電流ー



Ohmic-firstプロセス ーアモーファス状態の維持と漏れ電流の抑制ー









CV特性と界面準位密度分布





準位からのキャリア放出時定数





CV特性と界面準位密度分布













AIGaN/GaN HEMT MIS構造の C-V特性の解釈



• Two interfaces:



midgapからEvまでの界面準位の 応答時間が極めて長い 広い範囲でバイアス掃引した場合のCV特性





コンダクタンスのチェックが重要

HEMT MOS構造のCV特性の解釈ー計算ー





光支援CV解析法







- Hysteresis : Parallel shift
 → Consistent with calculation
- Estimation of interface state $D_{it}(E)$ $D_{it}(E) = C_{AlGaN} \cdot \Delta V_2 / (q \cdot \Delta h v)$





まとめ



1)広い禁制帯の窒化物半導体へのMIS構造

- ・絶縁膜の選択
- ・深いエネルギー位置の界面準位の評価 高温 or 光支援

2)HEMTへのMIS構造

- ・CV特性の解析に充分な注意が必要
- ・EG以下の光支援CV法が有力な評価法

3)ドライエッチ面へのMIS構造

・界面準位密度は高くなるが、表面処理やアニールで制御可能

E.H. Nicollian & J.R. Brews MOS Physics and Technology Wiley, 2003